

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	リハビリテーション医学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	前期 月・3限	教室名	302
担 当 教 員	鈴木 伸典	実務経験と その関連資格	医師			
《授業科目における学習内容》						
平均寿命の延長による高齢者の増加により、慢性疾患の患者が増加することにより、リハビリテーション医学に対する需要や期待が大きくなるにつれ、柔道整復師も理解を深め、知識と技術を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学を基本として、リハビリテーション全般に対して学ぶ。 教科書内容(リハビリテーション医学:南江堂)に応じて、教科書やスライドを交えて授業を進める。						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿ってリハビリテーションの意義を確認 必ず必要となる病状や症状があり、後療法に対して役立つ。						
《履修に当たっての留意点》						
外傷を対象とする柔道整復師には、後療法に対して非常に役立つ科目です。 臨床に即して伝えますので、頑張って勉強しましょう。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションとはが理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	教科書を読み、理念を把握
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの理念			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学の対象が理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	理念の復習とリハビリ対象者の予習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの対象と障害者の実態			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	世界の疾病分類等が理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	障害者のアプローチの予習
		各コマにおける授業予定	障害の階層とアプローチ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	各検査法や評価などが理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	検査法等の予習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション評価学			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害学がわかる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リハビリの障害学の予習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション障害学と治療学①			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	治療学がわかる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リハビリの治療学の予習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション障害学と治療学②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	リスク管理が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リハビリの障害と治療の復習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション障害学と治療学③		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	コ・メディカルが理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	リスク管理の復習と関連職種とはの予習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション医学の関連職種		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法・作業療法・言語聴覚・義肢装具の意義が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	コ・メディカルの実際の復習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーション治療技術		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者に対する医療が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	関連職種との協力の意義の復習
		各コマにおける授業予定	高齢者のリハビリテーション		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の治療と後療法、骨粗しょう症が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	高齢者に対する医療の復習
		各コマにおける授業予定	運動器のリハビリテーション①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	捻挫のアプローチや上肢・下肢損傷後症候群が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	治療や病名の復習
		各コマにおける授業予定	運動器のリハビリテーション②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	頰肩腕症候群・腰痛症・肋骨骨折・腱断裂等が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	軟部組織損傷の復習
		各コマにおける授業予定	運動器のリハビリテーション③		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉・介護保険・障害者スポーツ等が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	軟部組織損傷の復習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションと福祉 障害者スポーツ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	総合的にリハビリテーションとはが理解でき、今後役に立つ知識が確認できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会リハビリテーション医学 南江堂 改訂第4版	総理解 定期試験対策
		各コマにおける授業予定	まとめ・復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		外科学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時限	前期 水・4限	教室名	302教室
担 当 教 員		塩路 康信	実務経験と その関連資格	美作市立大原病院 院長 医師免許			
《授業科目における学習内容》							
日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を各臓器別に学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
一般臨床医学・病理学で学んだことを基礎に外科的に考えて症状から治療の仕方を学ぶ。 教科書内容(外科学概論:南江堂)に応じて教科書・パワーポイント等で授業を進める。							
《授業外における学習方法》							
国家試験に対して重要科目で、必ず臨床現場にて遭遇する疾患がある。症状等を確認する必要がある。							
《履修に当たっての留意点》							
患者さんの訴えに対して幅広く考え、適切な判断ができるように外科的知識を学ぶ。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	損傷がわかるようになる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論① (損傷)				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	炎症の意味や感染症の意味が分かるようになる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	病理学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論② (炎症と外科感染症)				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	腫瘍とはどういうものが理解できる。 ショック状態やその時の措置がわかるようになる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論③ (腫瘍、ショック)				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	消毒や滅菌の意味が分かるようになる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論④ (輸血、輸液、消毒と滅菌)				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術の分類などが理解できる。 麻酔の意義や使用方法はどが理解できる。		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	公衆衛生学の復習	
		各コマにおける授業予定	総論⑤ (手術、麻酔)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	移植の種類、免疫の意味がわかる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	総論⑥（移植と免疫）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	出血の意味、種類と止血の意味、種類が理解できる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	総論⑦（出血と止血）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	蘇生の重要性がわかる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	総論⑧（心肺蘇生法）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	各論①(脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	胸壁・呼吸器疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	外科学の予習
		各コマにおける授業予定	各論②(胸壁・呼吸器疾患)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓・脈管疾患について理解することができるようになる。	公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論③(心臓・脈管疾患)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論④(乳腺疾患)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論⑤(消火器の機能とその疾患)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	一般臨床医学の復習 病理学の復習
		各コマにおける授業予定	各論⑥(腸疾患、腹部炎症性疾患)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標		公益社団法人全国柔道整復学校協会外科学概論 南江堂 改訂第4版	総合的な復習 まとめ
		各コマにおける授業予定	各論⑦(まとめ)		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		関係法規		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	前期 水・1限	教室名	302教室
担 当 教 員		井上晃一	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師法及び関係法規、社会保障制度と職業倫理を学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本読み							
《履修に当たっての留意点》							
柔道整復師や医療法などの関係法規について学び。社会保険制度や職業倫理を理解する。							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	法について理解することができる		関係法規、社会 保障制度と柔道 整復師の職業倫 理	授業範囲の本読み予習 復習	
		各コマに おける 授業予定	序論(法について)				
第 2 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	患者の権利と医療過誤、リスクマネジメントについて理解することが できる		関係法規、社会 保障制度と柔道 整復師の職業倫 理	授業範囲の本読み予習 復習	
		各コマに おける 授業予定	序論(患者の権利と医療過誤、リスクマネージメントについて)				
第 3 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	目的と免許について理解することができる		関係法規、社会 保障制度と柔道 整復師の職業倫 理	授業範囲の本読み予習 復習	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師法と関連内容(目的と免許)				
第 4 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	免許と国家試験について理解することができる		関係法規、社会 保障制度と柔道 整復師の職業倫 理	授業範囲の本読み予習 復習	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師法と関連内容(免許と国家試験)				
第 5 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	業務について理解することができる		関係法規、社会 保障制度と柔道 整復師の職業倫 理	授業範囲の本読み予習 復習	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復師法と関連内容(業務)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	業務について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(業務)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	施術所について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(施術所)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	広告について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(広告)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	罰則について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復師法と関連内容(罰則)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療従事者に資格法について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(医療従事者の資格法)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療法について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(医療法)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉・社会保険関係について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(社会福祉・社会保険関係)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	個人情報について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	関係法規(個人情報)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	療養費について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	療養費について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	療養費について理解することができる	関係法規、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	授業範囲の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	療養費について		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		国家試験対策講座Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	前期 月2.3	教室名	303
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師国家試験に向け、解剖学、生理学を総合的に学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
小テスト、提出物などで評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
解剖学、生理学							
《授業外における学習方法》							
問題演習の自己添削、解説作成など、課題解決力を向上させる。							
《履修に当たっての留意点》							
単なる暗記ではなく、その先の臨床をみすえて取り組むこと。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。		解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、問題演習、グループワークなど				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。		解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成	
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。		解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成	
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。		解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成	
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。		解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成	
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学、生理学の問題演習により課題解決力をつける。	解剖学 生理学	解剖学、生理学の本読み、解説作成
		各コマにおける授業予定	問題演習、グループワークなど		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		柔整演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	前期 木・3限	教室名	302教室
担 当 教 員		木下 和樹	実務経験とその関連資格	柔道整復師免許 理学療法士免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師の業務は、接骨院・病院・介護施設・スポーツ現場と多岐にわたります。競技者の外傷予防や再発防止トレーニング、競技者を正しい情報、知識でサポートできるように考える							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
競技者の外傷予防							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本読み、実技練習							
《履修に当たっての留意点》							
国家試験においても出題されており、臨床現場においても必ず必要となる重要科目である							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動生理学を理解する		競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	運動とエネルギー代謝・骨と筋				
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動生理学を理解する		競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	呼吸・酸素摂取量・循環				
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	外傷予防について理解する		競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	外傷予防の概論				
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	外傷予防について理解する		競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	外傷の発生要因				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	評価と測定について理解する		競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習	
		各コマにおける授業予定	関節弛緩性テスト・筋タイトネステスト				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	ストレッチングの方法と実際		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	スポーツマッサージの方法と実際		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	スポーツテーピングの方法と実際		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	コンディショニングの方法について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	柔道における外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩関節の受傷・トレーニングの立案と実際		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	水泳・バスケットにおける外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	体幹の受傷・ACL損傷		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	サッカーにおける外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	足関節の受傷・トレーニングの立案と実際		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	成長期の外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	オスグットシュラッター病		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の外傷予防について理解する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	高齢者の受傷メカニズム		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	再復習をおこない疑問点などを解消する	競技者の外傷予防	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	授業総復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔整応用実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	前期 木・4限	教室名	302教室
担 当 教 員		木下 和樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格 理学療法士			
《授業科目における学習内容》							
臨床実習を行うにあたって必要となる医療面接法、体表観察法、評価・測定の修得を目指す							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験80% 実技試験20%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
臨床実習ガイドライン 柔道整復師学理論編・実技編 解剖学							
《授業外における学習方法》							
身体部位の触診、身体計測、ROM、MMT、等の予習、復習を行う							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習においても必ず必要となる実技である。また国家試験や柔道整復師業務において重要科目である							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	臨床実習について理解する		柔道整復師学理 論編改定版6版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	講義ガイダンス・オリエンテーション				
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	医療面接について理解する		柔道整復師学理 論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	医療面接 言葉使い、問診、接遇、視診				
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	主要な骨、筋を触知できる		柔道整復師学理 論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	主要な骨と筋の触知				
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	身体計測、バイタルサインができる		柔道整復師学理 論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	血圧測定、四肢長、四肢周径				
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	ROM測定ができる		柔道整復師学理 論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ROM測定ができる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	MMTができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	肩、肘、手、股、膝、足関節		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	頸部・上肢		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	整形外科的テストができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	反射検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	深部反射、表在反射		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	感覚検査・運動機能検査ができるようになる	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	表在・深部感覚、上肢・下肢・体幹の機能検査		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実技総復習	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	これまでに行った実技を行う		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	実技を行う	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	実技試験		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	再復習をおこない疑問点などを解消する	柔道整復師学理論編改定版6版 オリジナル資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	授業総復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	柔整臨床実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期 木・1, 2限	教室名	実技室2
担 当 教 員	岡本 一馬	実務経験と その関連資格	かとう整形外科7年勤務 みどりまち接骨院3年勤務			
《授業科目における学習内容》						
実技認定試験に対応する内容である。実際の臨床との関連を明確にし、卒業後においても役に立つ内容を提供する。また、柔道整復師国家試験の対象範囲でもあるため国家試験も意識した授業を心がける。						
《成績評価の方法と基準》						
柔道整復試験財団が実施する認定実技審査の評価に基づいて実技試験を実施し評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメに基づいて自宅学習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
臨床を常に想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組んでもらう。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	橈骨遠位端骨折について理解し、診察と整復を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折 診察 牽引直圧整復法・屈曲整復法			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の固定を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折 クラメル副子と局所副子・三角巾固定			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボクサー骨折の特徴を理解する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	第5中手骨頸部骨折の固定を習得する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	第2指PIP関節背側脱臼について理解する		柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	第2指PIP関節背側脱臼 アルミ副子背側固定			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折について理解し、整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 整復法		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 固定法		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼について理解し、診察と整復法を取得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼 診察と整復法		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節脱臼の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩鎖関節脱臼 固定法		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨外科頸外転型骨折について理解し、診察と整復を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨外科頸外転型骨折 診察と整復		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折について理解し、固定具を作成	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折 ミッドドルフ固定		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折 ミッドドルフ固定		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼について理解し、診察と整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼 診察と整復法		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の固定を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方烏口下脱臼 局所副子・三角巾固定		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	肘関節後方脱臼について理解し、診察と整復法を習得する	柔道整復理論、 柔道整復実技およびレジュメ	
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼 診察と整復法		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名		整復臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時限	前期 火・3限	教室名	体育館
担 当 教 員		上瀧 亨	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復専科教員免許・柔道6段			
《授業科目における学習内容》							
整復臨床実技において修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(投げの形、実戦形式での受身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。なお、柔道実技審査に向けた指導をし、習得させる。							
《成績評価の方法と基準》							
実技試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
認定実技審査の項目							
《授業外における学習方法》							
《履修に当たっての留意点》							
高度な受身・投技を習得するとともに、相手のことを尊重し、協力して全員が柔道実技審査に合格することを目標とし、授業に参加する							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道着の着こなし方、礼法、受身、投げの形について理解できるようになる。			認定実技審査要綱	柔道着の確認
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 柔道実技審査に向けたビデオ鑑賞				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようになる。			認定実技審査要綱	前回り受身 飛び込み の前回り受身の確認 すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技)3つの技を習得できるようになる。			認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮落、背負投、肩車)を順番に指導する。				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようになる。			認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(腰技)3つの技を習得できるようになる。			認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(浮腰、払腰、釣込腰)を順番に指導する。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(足技)3つの技を習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方、手技(送足払、支釣込足、内股)を順番に指導する。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(受・取の協力性)
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形(手技、腰技、足技)をすべて習得できるようになる。	認定実技審査要綱	投げの形での演舞(より正確に美しく見せる)
		各コマにおける授業予定	投げの形においての入り方・終わり方、すべての形を一連の流れでできるように指導する。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	実践練習(乱取)にて、投げる、投げられ受身をとるといったことができるようにする。	認定実技審査要綱	きっちりとした技で投げる、投げられる際の受身
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	審判の体験
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて、練習を通じて習得できるように指導する。		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合形式で実践し、公式試合に出場できる知識を身につけられるようにする。	認定実技審査要綱	実技試験に向けた演舞、実践練習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として柔道整復師国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じて問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版、関係法規 2020年度版、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	前期 火・1, 2限	教室名	303
担 当 教 員	大村晋司	実務経験と その関連資格	整骨院にて6年勤務、朝日医療専門学校にて専任教員13年(現朝日医療大学校) 大村接骨院開院8年			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師国家試験に向け、解剖学、生理学、運動学、柔道整復学など主要科目を総合的に学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
国家試験出題形式と同じ						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復理論、柔道整復実技、解剖学、運動学、生理学、オリジナルレジュメ						
《授業外における学習方法》						
オリジナルレジュメ、教科書を使い復習を行う						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験合格が単なる目標ではなく、その先の臨床を見据えた講義とする。学生の皆さんもそのつもりで学んで欲しい。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ		柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマに おける 授業予定	脊柱損傷1			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する 生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。		解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマに おける 授業予定	体幹・上肢機能解剖1			
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ		柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマに おける 授業予定	脊柱損傷2			
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する 生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。		解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマに おける 授業予定	体幹・上肢機能解剖2			
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ		柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマに おける 授業予定	上肢損傷1			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	体幹・上肢機能解剖3		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	上肢損傷2		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	体幹・上肢機能解剖4		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	上肢損傷3		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	体幹・上肢機能解剖5		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	上肢損傷4		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	体幹・上肢機能解剖6		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	上肢損傷5		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	体幹・上肢機能解剖7		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	上肢損傷6		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復演習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	前期 火・1, 2限	教室名	303
担 当 教 員		大村晋司	実務経験とその関連資格	整骨院にて6年勤務、朝日医療専門学校にて専任教員13年(現朝日医療大学校) 大村接骨院開院8年			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師国家試験に向け、解剖学、生理学、運動学、柔道整復学など主要科目を総合的に学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
国家試験出題形式と同じ							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復理論、柔道整復実技、解剖学、運動学、生理学、オリジナルレジュメ							
《授業外における学習方法》							
オリジナルレジュメ、教科書を使い復習を行う							
《履修に当たっての留意点》							
国家試験合格が単なる目標ではなく、その先の臨床を見据えた講義とする。学生の皆さんもそのつもりで学んで欲しい。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。		解剖学 運動学 生理学 レジュメ		
		各コマにおける授業予定	下肢機能解剖1				
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ		柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ		
		各コマにおける授業予定	下肢損傷1				
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。		解剖学 運動学 生理学 レジュメ		
		各コマにおける授業予定	下肢機能解剖2				
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ		柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ		
		各コマにおける授業予定	下肢損傷2				
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。		解剖学 運動学 生理学 レジュメ		
		各コマにおける授業予定	下肢機能解剖3				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢損傷3	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折の整復、固定について実施できるようにする		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	下肢機能解剖4		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ□	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	下肢損傷4		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	下肢機能解剖5		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ□	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	下肢損傷5		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	下肢機能解剖6		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論と実技について総合的に学ぶ□	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	下肢損傷6		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復師の根幹となる機能解剖を熟知し、それに付随する生理学的・運動学的事項を総合的に学ぶ。	解剖学 運動学 生理学 レジュメ	
		各コマにおける授業予定	下肢機能解剖7		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習、試験準備	柔道整復理論 柔道整復実技 レジュメ	
		各コマにおける授業予定			
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	期末試験		
		各コマにおける授業予定	国家試験出題形式における出題		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復学基礎Ⅱ (柔道整復学を総合的に学ぶ)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	前期 水・3限	教室名	302教室
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学を総合的に学び、他科目についても学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改定第7版						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み・問題を繰り返し解き学習する。						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験の出題数が一番多い科目である。意識して復習し、理解を深めて欲しい。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	総論(骨折)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	総論(脱臼)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	総論(軟部組織損傷)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	総論(評価、治療法)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習	
		各コマにおける授業予定	各論(上肢)①			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(上肢)②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(上肢)③		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(上肢)④		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(上肢)⑤		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(下肢)①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(下肢)②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(下肢)③		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(下肢)④		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の問題の解答・解説により理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	各論(下肢)⑤		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期学習内容の復習を行い、苦手分野を把握し理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編 改定第7版・問題プリント	柔道整復学・理論編 改定第7版本読み・問題の復習
		各コマにおける授業予定	前期内容復習・まとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復術適応の臨床的判断		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時間	前期 水・2限	教室名	302教室
担 当 教 員	井上晃一	実務経験と その関連資格	接骨院開業経験 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
超音波画像装置の取り扱いや、医用画像の抽出、読影の基本を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
施術の適応と医用画像の理解,,解剖学, 柔道整復学・理論編						
《授業外における学習方法》						
教科書に沿って本読み・医療用語学習・骨・筋の解剖の理解						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復師が業務で取り扱うことのできる画像検査装置であり、国家試験問題にもエコー検査画像が出題されている。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	医用画像の分類と使用上の注意点について理解することができる		施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習
		各コマに おける 授業予定	医用画像の分類と使用上の注意点			
第 2 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	超音波検査装置について理解することができる		施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習
		各コマに おける 授業予定	超音波検査装置について			
第 3 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	超音波装置の画像表示について理解することができる		施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習
		各コマに おける 授業予定	超音波装置の画像表示について			
第 4 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	超音波検査装置プローブの操作方法・基礎操作実技について 理解することができる		施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習
		各コマに おける 授業予定	超音波検査装置プローブの操作方法・基礎操作実技			
第 5 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる		施術の適応と医 用画像の理解ま たは補足スライド 資料	授業範囲・運動器解剖 学の本読み予習復習
		各コマに おける 授業予定	上肢の触診と検査法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	上肢の触診と検査法		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触診と検査法について理解することができる	施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	下肢の触診と検査法		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標		施術の適応と医用画像の理解または補足スライド資料	授業範囲・運動器解剖学の本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	復習とまとめ		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		整形外科科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	前期 月・2限	教室名	302
担 当 教 員		濱浪 一則	実務経験と その関連資格	医師			
《授業科目における学習内容》							
整形外科学の教科書に沿って							
《成績評価の方法と基準》							
試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復師学校協会 整形外科科学							
《授業外における学習方法》							
《履修に当たっての留意点》							
国家試験の出題傾向を鑑みながら							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨基質・骨の細胞の理解		南江堂 全国柔道整復学校協会	柔道整復理論、解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	骨の基礎知識				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨軟化・骨化過程		南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習	
		各コマにおける授業予定	骨の形成異常				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	リモデリングとビタミンD		南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習	
		各コマにおける授業予定	骨粗鬆症				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	単遺伝子疾患、側彎症		南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習	
		各コマにおける授業予定	低身長・骨格異常				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	治癒過程・肉芽反応		南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習	
		各コマにおける授業予定	骨折治癒				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨腫瘍・骨肉腫など	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	骨腫瘍		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節軟骨・滑膜・椎間板	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	関節の基礎知識		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	一次性・二次性OA	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	変形性関節症		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	HLA－B27関連関節症・偽性痛風	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	その他の関節症・痛風		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋細胞と筋線維・サルコペニア	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	筋肉の基礎知識		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋膜炎・肉離れと筋挫傷	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	筋膜病変と筋断裂		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	デインゲンヌ型・ペイカー型	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	筋ジストロフィー・靱帯病理		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢末梢神経障害	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	神経障害		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢末梢神経障害	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	神経障害		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	ポリオ・脊髄空洞症・脊髄瘍・ALS	南江堂 全国柔道整復学校協会	前回内容の復習
		各コマにおける授業予定	脊髄疾患		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習演習
科 目 名		臨床実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	後期 水曜日	教室名	外部実習先
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習							
《成績評価の方法と基準》							
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン							
《授業外における学習方法》							
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。							
授業の 方法		内 容				使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回		授業を 通じての 到達目標	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)			公益社団法人全 国柔道整復学校 協会 臨床実習 ガイドライン	
		各コマに おける 授業予定					
第 2 回		授業を 通じての 到達目標	大谷接骨院(山崎)				
		各コマに おける 授業予定					
第 3 回		授業を 通じての 到達目標	大谷接骨院(山崎)				
		各コマに おける 授業予定					
第 4 回		授業を 通じての 到達目標	大谷接骨院(山崎)				
		各コマに おける 授業予定					
第 5 回		授業を 通じての 到達目標	大谷接骨院(山崎)				
		各コマに おける 授業予定					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	大谷接骨院(山崎)			
第 7 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	大谷接骨院(山崎)			
第 8 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	大谷接骨院(山崎)			
第 9 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	美作名倉堂接骨院			
第 10 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	美作名倉堂接骨院			
第 11 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	美作名倉堂接骨院			
第 12 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	美作名倉堂接骨院			
第 13 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	美作名倉堂接骨院			
第 14 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	美作名倉堂接骨院			
第 15 回	授業を 通じての 到達目標				
	各コマに おける 授業予定	美作名倉堂接骨院			

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		JATI特講		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	303教室
担 当 教 員		生田 晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士 NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
1、2年生で学習し、習得したトレーニングの知識、実技をベースに、資格取得目標の一つであるJATIの資格試験合格に向けた試験対策授業ではあるが、資格対策のみではなくトレーニング指導の基礎から応用まで再度学習し、資格合格と共にトレーニング指導も出来るように学習していく。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験:70点 出席点:20点 平常点:10点							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] 一般科目ワークノート改訂版、専門科目ワークノート改訂版 配布プリント							
《授業外における学習方法》							
事前にテキストを読み込む。 学習した内容はテキスト、配布プリントを用いて復習をする。 また練習問題を繰り返し行い、苦手分野を克服できるようにしておく。							
《履修に当たっての留意点》							
欠席してしまうと、欠席のところの内容が学習されないまま進んでしまうため、全コマ出席を目指しましょう。							
授業の 方法			内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	体力学総論、バイオメカニクスについて理解する		トレーニング指導 者テキスト[理論 編、実践編、実 技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリント を読み込んで理解し、 授業内で学習した内容 を繰り返し復習して習得 できるようにしておく。	
		各コマに おける 授業予定	【体力学総論】 【バイオメカニクス】スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス				
第2回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	運動生理学について理解する		トレーニング指導 者テキスト[理論 編、実践編、実 技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリント を読み込んで理解し、 授業内で学習した内容 を繰り返し復習して習得 できるようにしておく。	
		各コマに おける 授業予定	【運動生理学】 呼吸循環系、エネルギー代謝と運動				
第3回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	運動と栄養について理解する		トレーニング指導 者テキスト[理論 編、実践編、実 技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリント を読み込んで理解し、 授業内で学習した内容 を繰り返し復習して習得 できるようにしておく。	
		各コマに おける 授業予定	【運動と栄養】 基礎知識・スポーツ選手の競技力と栄養、健康増進と栄養				
第4回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	運動と心理について理解する		トレーニング指導 者テキスト[理論 編、実践編、実 技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリント を読み込んで理解し、 授業内で学習した内容 を繰り返し復習して習得 できるようにしておく。	
		各コマに おける 授業予定	【運動と心理】 基礎知識・競技力向上への活用、健康増進への活用				
第5回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	運動と医学について理解する		トレーニング指導 者テキスト[理論 編、実践編、実 技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリント を読み込んで理解し、 授業内で学習した内容 を繰り返し復習して習得 できるようにしておく。	
		各コマに おける 授業予定	【運動と医学】 救急処置・整形外科的障害と予防・生活習慣病とその予防／ 運動指導の科学				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	トレーニング計画の立案について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【トレーニング計画の立案】		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	筋力トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【筋力トレーニングのプログラム作成】 【筋力トレーニングの実際】		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	パワー向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【パワー向上トレーニングの実際】		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	持久力向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【持久力向上トレーニングの実際】		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	スピード向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【スピード向上トレーニングの実際】		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	柔軟性向上トレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	【柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成】 【柔軟性向上トレーニングの実際】		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	特物な対象のためのトレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	特別な対象のためのトレーニングプログラム		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	傷害の受傷から復帰までのトレーニングについて理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	トレーニング効果の測定と評価について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	トレーニング効果の測定と評価		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	トレーニングの運営と情報活用について理解する	トレーニング指導者テキスト[理論編、実践編、実技編] ワークノート 配布プリント	テキストや配布プリントを読み込んで理解し、授業内で学習した内容を繰り返し復習して習得できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	トレーニングの運営と情報活用		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		医学史		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時間	後期 金1	教室名	303教室
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
医学史全般を学ぶ							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
プリント 柔道整復学 理論編							
《授業外における学習方法》							
必要な知識を学ぶ。							
《履修に当たっての留意点》							
現代医学を学んでいく上で必要不可欠な医学の歴史を学ぶ。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	医学の歴史について学習する。		私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般	
		各コマに おける 授業予定	医学の歴史				
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	西洋の医学史について学習する。		私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般	
		各コマに おける 授業予定	西洋の医学史				
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	西洋の医学史について学習する。		私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般	
		各コマに おける 授業予定	西洋の医学史				
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	西洋の医学史について学習する。		私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般	
		各コマに おける 授業予定	西洋の医学史				
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	東洋の医学史について学習する。		私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般	
		各コマに おける 授業予定	東洋の医学史				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。	私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般
		各コマにおける授業予定	東洋の医学史		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	東洋の医学史について学習する。	私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般
		各コマにおける授業予定	東洋の医学史		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。	私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般
		各コマにおける授業予定	日本の医学史		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。	私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般
		各コマにおける授業予定	日本の医学史		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の医学史について学習する。	私用プリント	私用プリントの熟読 医学の歴史全般
		各コマにおける授業予定	日本の医学史		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の歴史		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療倫理の歴史について学習する。	公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道整復学理論編 南江堂	柔道整復学理論編のテキスト第1章を熟読
		各コマにおける授業予定	医療倫理の歴史		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	国家試験対策		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期 火・1,2限	教室名	304教室
担 当 教 員	大村晋司	実務経験とその関連資格	専門学校専任教員13年、専門学校非常勤8年、整骨院勤務6年、開業8年			
《授業科目における学習内容》						
国家試験に向け柔道整復学を中心とし、その他の関連科目を織り交ぜる。全講義で国家試験を意識した選択問題を1500問を解き解答解説を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、出席点、授業態度の点数で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復の教科書(柔道整復理論・実技)、その他関連科目						
《授業外における学習方法》						
習った項目を教科書で調べる。解説しきれなかった問題などは私が作成した解答解説による自主学習						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo1:50	講義で学習したことの復習	
	各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo2:51～100	講義で学習したことの復習	
	各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo3:101～150	講義で学習したことの復習	
	各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo4:151～200	講義で学習したことの復習	
	各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo5:201～250	講義で学習したことの復習	
	各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo6:251～300	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo7:301～350	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo8:351～400	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo9:451～500	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo10:501～550	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo11:551～600	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo12:601～650	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo13:651～700	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo14:701～750	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中して解いた問題から、問題に関連する項目を学び他の疾患あるいは関連科目とのつながりを増やしていく。	柔整理論・実技 関連科目 テストNo15:751～800	講義で学習したことの復習
		各コマにおける授業予定	柔道整復学を中心とし関連科目も含めた50問を解き、その後解答解説を行う。		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		国家試験対策Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	後期 金・3限	教室名	304教室
担 当 教 員		木下 和樹	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 理学療法士免許 柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
国家試験に向けてリハビリテーション医学、整形外科学、運動学							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
国家試験過去問題 スライド資料							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本読み、国試過去問							
《履修に当たっての留意点》							
国家試験においても出題されており、臨床現場においても必ず必要となる重要科目である							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリ概論を理解する		国家試験過去問 題 スライド資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	リハビリテーションの目的・進め方				
第 2 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーションの基礎医学		国家試験過去問 題 スライド資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	脳卒中				
第 3 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーションの評価・診断		国家試験過去問 題 スライド資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	MMT・ROM等評価について				
第 4 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	リハビリテーションの治療		国家試験過去問 題 スライド資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の治療、装具療法				
第 5 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	整形外科総論		国家試験過去問 題 スライド資料	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	整形外科総論				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患別各論	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	感染性疾患・軟部腫瘍		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	疾患別各論	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	骨端症 神経・筋疾患		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	身体部位別疾患	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	体幹・上肢・下肢		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	運動学概論	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	運動器の構造と機能		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	運動の神経機構	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	神経と運動感覚、反射について		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	四肢と体幹の運動	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	筋の作用および神経支配について		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	姿勢と歩行	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	正常歩行と異常歩行について		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動発達	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	原始反射・人の過程について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション医学を理解する	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの総復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	整形外科学・運動学を理解する	国家試験過去問題 スライド資料	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	整形外科学・運動学の総復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名		国家試験対策講座Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時限	後期 金2	教室名	
担 当 教 員		柴崎 清志	実務経験と その関連資格	鍼灸整骨院開業・大阪ハイテク附属整骨院 柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》							
演習問題を中心に解説							
《成績評価の方法と基準》							
問題小テスト							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
国家試験過去問題集、配布プリント							
《授業外における学習方法》							
苦手分野の反復学習							
《履修に当たっての留意点》							
全出席、国家試験合格のレベルへ							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準に準じた必修問題			国家試験過去問 題集、配布プリン ト	問題に対するポイントの 整理	
	各コマに おける 授業予定	柔道・社会保障、倫理、関係法規等					
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準に準じた必修問題			国家試験過去問 題集、配布プリン ト	問題に対するポイントの 整理	
	各コマに おける 授業予定	柔道・社会保障、倫理、関係法規等					
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準に準じた必修問題			国家試験過去問 題集、配布プリン ト	問題に対するポイントの 整理	
	各コマに おける 授業予定	柔道・社会保障、倫理、関係法規等					
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準に準じた必修問題			国家試験過去問 題集、配布プリン ト	問題に対するポイントの 整理	
	各コマに おける 授業予定	一般臨床医学・病理学・外科学					
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	国家試験出題基準に準じた問題			国家試験過去問 題集、配布プリン ト	問題に対するポイントの 整理	
	各コマに おける 授業予定	一般臨床医学・病理学・外科学					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	一般臨床医学・病理学・外科学		
第7回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	一般臨床医学・病理学・外科学		
第8回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた必修問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	一般臨床医学・病理学・外科学		
第9回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた必修問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	柔道・社会保障、倫理、関係法規・柔整理論等		
第10回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた必修問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	柔道・社会保障、倫理、関係法規・柔整理論等		
第11回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	解剖学		
第12回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	解剖学		
第13回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	解剖学		
第14回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	柔道整復学		
第15回	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準に準じた問題	国家試験過去問題集、配布プリント	問題に対するポイントの整理
	各コマにおける授業予定	柔道整復学		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		柔整基礎実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (3) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時限	後期 木3	教室名	実習室2
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
軟部組織損傷の後療法について理解し、実践する。							
《成績評価の方法と基準》							
実技試験及び記述試験にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「運動学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・医歯薬出版株式会社							
《授業外における学習方法》							
解剖学、機能解剖学の理解を深め、組織損傷の病態から必要な後療法を選べるよう知識をつける							
《履修に当たっての留意点》							
臨床を想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組む。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	オリエンテーション			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	オリエンテーション					
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の手技療法、運動療法					
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の手技療法、運動療法					
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の手技療法、運動療法					
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の手技療法、運動療法					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法		
第7回	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	腰部の手技療法、運動療法		
第8回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第9回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第10回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第11回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第12回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第13回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能から考えて必要な後療法を理解、実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の手技療法、運動療法		
第14回	授業を通じての到達目標	まとめ	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	復習、実技練習		
第15回	授業を通じての到達目標	実技試験	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	実技試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		柔整臨床実技Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時限	後期 木4	教室名	実習室2
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
軟部組織損傷の評価について理解し、実践する。							
《成績評価の方法と基準》							
実技試験及び記述試験にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「運動学 改訂第3版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・医歯薬出版株式会社							
《授業外における学習方法》							
解剖学、機能解剖学の理解を深め、組織損傷の病態を考える。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床を想定しながら、各外傷の知識と技術を習得するために真剣に取り組む。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	オリエンテーション			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	オリエンテーション					
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践 できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の機能解剖、評価					
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践 できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診					
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践 できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診					
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践 できる。			教科書、プリン ト、PC	解剖学、柔道整復学の 復習、機能解剖学の自 己学習	
	各コマに おける 授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第7回	授業を通じての到達目標	腰部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	腰部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第8回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第9回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第10回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第11回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第12回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第13回	授業を通じての到達目標	肩関節部の構造と機能について理解し、腰痛に対する評価を実践できる。	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	肩関節部の機能解剖、評価、徒手検査、触診		
第14回	授業を通じての到達目標	まとめ	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	復習、実技練習		
第15回	授業を通じての到達目標	実技試験	教科書、プリント、PC	解剖学、柔道整復学の復習、機能解剖学の自己学習
	各コマにおける授業予定	実技試験		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	後期 月3	教室名	304
担 当 教 員	奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許			
《授業科目における学習内容》						
国家試験必修対策として柔道整復師国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じて問題演習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第6版、柔道整復学・実技編 改訂第2版、						
《授業外における学習方法》						
小テストの問題に対して問題解説を作成する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の復習を行う。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成	
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験出題基準の必修問題出題基準に準じた問題について、解答・解説できる。	上記教科書 参考資料 課題プリント	教科書の復習、問題に対する解説作成
		各コマにおける授業予定	柔道整復師国家試験出題基準の必修出題範囲に準じた問題演習を行う。		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	柔道整復演習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	4年		学期及び曜時限	後期 金4	教室名	304
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復学総論を中心に、総論の理解に必要な運動器の生理学的、運動学的な内容を復習する。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験、模擬試験等の成績により評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会 ・運動学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会 ・生理学 改訂第3版 全国柔道整復学校協会						
《授業外における学習方法》						
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。						
《履修に当たっての留意点》						
復習をしっかりしておく。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。		教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習			
第 2 回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。		教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習			
第 3 回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。		教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習			
第 4 回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。		教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習			
第 5 回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。		教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復学総論を理解し説明できる。	教科書、課題	教科書のまとめ作成
		各コマにおける授業予定	問題演習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復演習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年		3年		学期及び曜時限	前期 月4 水1.2	教室名	305
担 当 教 員		平林 大輔	実務経験と その関連資格	柔道整復師施術管理者 柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復師として骨学の復習と柔道整復理論の復習を行う。今までの学年でやってきた事のまとめとして授業を展開していく。							
《成績評価の方法と基準》							
期末試験で成績の全てを判定する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編 改訂第6版 全国柔道整復学校協会 解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会							
《授業外における学習方法》							
各自図書館にある図書や、インターネット等を活用し立体的に人体を捉えておく。							
《履修に当たっての留意点》							
復習をしっかりしておく。							
授業の方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習		上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習		上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習		上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習		上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習		上記教科書	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	四肢の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋の骨折・脱臼の復習	上記教科書	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	頭部・体幹の骨折・脱臼と軟部組織損傷		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	実習
科 目 名	整復臨床実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期 水・4限	教室名	体育館
担 当 教 員	上瀧 亨	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
柔道Ⅱにおいて修得した投げ技を高めるとともに、高度な受け身(背負投、巴投、肩車の受け身)の取得を目標とする。「投の形」の手技、腰技、足技の9種類を受け取りともに身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
1 実技試験70% 2 出席20% 3 平常点(グループワーク中の態度発表)10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
《授業外における学習方法》						
2021年の東京オリンピックを前に 国際大会 国内大会など中継及びネット配信を 興味を持って観戦する。						
《履修に当たっての留意点》						
高度な受け身を習得するとともに 回転運動などを 自分の体調や今までのけがなど考慮し自己管理をして授業に参加する。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形について理解できるようになる。			柔道着の確認
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 投げの形鑑賞			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの受け身を習得できるようになる。			前回り受身 飛び込みの前回り受身の確認
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(受の動き)			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	背負い投げの投げ方における前回り裁きができるようになる。			すり足 前の移動 横の移動 後ろの移動
		各コマにおける授業予定	背負い投げの原理(取の動き)			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	後ろ回り裁きができるようになる。			投げの形と 実践の投げ技の違いの確認
		各コマにおける授業予定	背負い投げと一本背負い			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げてからの抑え込みと下からの寝技の攻防ができるようになる。			抑え込みの確認 袈裟固め 横四方固め
		各コマにおける授業予定	寝技での背負い投げ、寝技での肩車			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げの受け身ができるようになる。		投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(受の動き)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	巴投げで投げられるようになる。		投げの形での 崩しの確認
		各コマにおける授業予定	巴投げの原理(取の動き)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車の取の動き方が理解できるようになる。		相手を楽に持ち上げる方法 足の筋肉を使って
		各コマにおける授業予定	肩車の原理(取り動き)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩車における現在のルールについて理解できるようになる。		寝技のバリエーションを増やしていく
		各コマにおける授業予定	肩車を使った寝技		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	投げの形の手技ができるようになる。		投げの形での 足の運びの確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(取の動き)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	受身の動作および立ち方を理解し、できるようになる。		投げの形での 受身の確認
		各コマにおける授業予定	投げの形(受の動き)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	試合のルールを理解できるようになる。昇段を目指す。		指導がくる 要素
		各コマにおける授業予定	試合のルールについて 投げの形(手技の受取)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	団体戦の礼法ができるようになる。昇段を目指す。		審判を体験
		各コマにおける授業予定	試合の団体戦の礼法について 投げの形(腰技の受取)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	トーナメント試合について理解できるようになる。昇段を目指す。		試合運営の確認
		各コマにおける授業予定	トーナメント試合について 投げの形足技の受取		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	公式試合に出場できる知識を身につけられるようになる。		投げの形受取両方の習得
		各コマにおける授業予定	まとめ		